

# クサガメ *Chinemys reevesii* およびアカミミガメ *Trachemys scripta* より得られた吸虫類 *Neopolystoma sp* と *Telorchis sp* について

松井 俊裕<sup>1</sup>, 梅原 梓里<sup>2</sup>, 川上 泰<sup>2</sup>, 内田 明彦<sup>1,2</sup>, 荒木 潤<sup>1</sup>

<sup>1</sup>目黒寄生虫館, <sup>2</sup>麻布大学・医動物

## 1. はじめに

近年, 日本の沼地に生息するカメとしては, イシガメ (*Mauremys japonica*), クサガメ (*Chinemys reevesii*), アカミミガメ (*Trachemys scripta*) が一般的に知られている。イシガメとクサガメは, 日本の在来種であるが, アカミミガメはアメリカなどから輸入されて放されたと思われる外来種である。現在では, 外来種のアカミミガメの方が, 在来2種よりも繁殖力旺盛で, 在来種の存続が脅かされている。

これら, カメの寄生虫蠕虫類の報告は少なく, 特に吸虫類 (ここでは単生類と二生類を含む) に関しては, Yamaguti (1933), Ogata (1934), 福井・尾形 (1934), Ozaki (1935) の報告しかない。単生類に関しては, Ozaki (1935) が広島のアカミミガメから *Neopolystoma exhamatum* を新種報告している。本種は *Polystomoides* 属として報告されたが Price (1939) によって *Neopolystoma* 属に移されている。二生類としては, *Telorchis* 属4種 (*T. clemmydis*, *T. geoclemmydis*, *T. konoii*, *T. megacotyle*) が報告されている。Yamaguti (1933) によって, *T. clemmydis* はクサガメとイシガメより, *T. geoclemmydis* は京都産のクサガメより新種として報告されている。Ogata (1934) が大阪付近のクサガメから新種として報告した *T. konoii* は *T. geoclemmydis* と非常に似ており, 同一宿主でしかも産地も近い。また, *T. megacotyle* は福井・尾形 (1934) によって静岡県産のイシガメから報告されている。これら4種は非常に似ており同一種となる可能性があることを福井 (1963) は示唆している。

今回, 東京都内のクサガメとアカミミガメより, *Neopolystoma* 属と *Telorchis* 属の虫体を得たので, 現在まで報告されている両属の種類と比較検討した。

## 2. 材料と方法

東京都町田市郊外にある薬師池に生息するクサガメ29匹およびアカミミガメ32匹を解剖し, 吸虫類を得た。得られた虫体は70%アルコールあるいはAFA液で圧平固定し, アラムカーミンあるいはハイデンハイン鉄ヘマトキシリンで染色し標本作製した。

## 3. 結果と考察

膀胱から単生類12虫体が採集され *Neopolystoma* 属と考えられた。小腸からは95虫体の二生類が得られ, *Telorchis* 属と考えられた。

*Neopolystoma* 属虫体は, 体長4.0-5.5 mm, 体後方に6個の吸盤を備える caudal disc を持つ。大鉤は見られず, 小鉤が2つの前吸盤と後吸盤の間にそれぞれ6本と4本ある。精巢は1個で体中央部にあり分葉形を呈す。卵巣は0.36-0.40 × 0.14-0.19 mm, 子宮は短く1個の虫卵 (0.27-0.28 × 0.20-0.22 mm) がみられる。*Neopolystoma* 属は, *Polystomoides* 属と *Polystomoidella* 属と非常によく似ているが大鉤の有無で区別できる。今回得られた虫体は, *N. exhamatum* と形態の上でよく一致した。したがって, *N. exhamatum* の新宿主としてアカミミガメとクサガメを追加する。

*Telorchis* 属虫体は、体長、22-110 mm、体幅3-6 mm、柳葉状で、口吸盤と腹吸盤は、それぞれ0.04-0.20 × 0.05-0.15 mm, 0.09-0.24 × 0.08-0.20 mm、咽頭は小さく、短い食道の後方で左右に分岐した腸管は体後方まで達する。精巢は、体後方で前後に並び、それぞれ0.16-1.40 × 0.20-1.06 mm, 0.16-1.56 × 0.16-1.30 mm。陰茎囊はよく発達して長く、腹吸盤の直径の5倍以上のものもあり、腹吸盤後方から腹吸盤の裏側を経て腹吸盤前に開口にする生殖孔に達する。卵巣は腹吸盤の後方にあり、子宮は卵巣と体後方にある精巢の間に広がる。今回、既知の*Telorchis* 属の形態を比較したところ、陰茎囊と卵巣

が接している *T. clemmydis* と *T. geoclemmydis* のグループと、離れている *T. konoi* と *T. geoclemmydis* の2グループに分けられ、今回採取された虫体は、陰茎囊と卵巣が離れているグループに入った。陰茎囊と卵巣の距離は今回の虫体でも variation が著しく、また、Yamaguti (1933) の *T. geoclemmydis* の記載は1虫体のみに基づいていることなどを考えると、陰茎囊と卵巣の距離の差で提唱された、*T. konoi* は、*T. geoclemmydis* のシノニムとするのが妥当であると考えられた。今回調査したアカミミガメを *T. geoclemmydis* の新宿主として追加する。